

## 「栃木しゃも」の能力向上に向けた雌系交雑種の 能力検定試験について

当場で開発した「栃木しゃも」は雄系にしゃもを用い、雌系にはフランス産地鶏のプレノール種の雄と卵肉兼用種のロードアイランドレッドの雌を掛け合わせて交雑種を作り、雌系として利用しています。今後「栃木しゃも」の一層の普及推進を図っていくためには、雄系と雌系の両面から改良を進めていく必要があります。そこで、中小家畜研究室では、実用鶏生産のための種卵の安定供給を可能としながら、その上で「栃木しゃも」としての特質を損なわない様な、優れた雌系交雑種を開発するための能力検定試験に取り組んでいます。現在「栃木しゃも」の生産に利用しているロードアイランドレッドの系統は、当場で維持管理を行ってきた大型のTG系というものです。「栃木しゃも」の生産を現時点で担っているという点で、実績と信頼感は申し分ないのですが、今後の生産拡大を考えた場合、種卵の生産能力にやや不満が残ります。また、TG系の基になったT系が昭和35年導入の系統であり、長年に渡る維持が種としての力を弱めてきていることも否めません。これらの理由から、雌系交雑種の改良としては、まずロードアイランドレッドの系統を見直すことから着手することとしました。しかしながら、種鶏として利用するためには、単に増体や産卵に優れるといった能力のみならず、もう一つの利用系統プレノール種との相性やさらに交雑種として雄系であるしゃもとの相性、そしてその品種が将来に渡って確保が可能であるかといった問題も絡むため、選定については慎重に行う必要があります。

このように、考慮すべき点が多くそれらが互いに関係し合うという複雑な性格を持った試験ですが、成果をあげるべく努力していきたいと考えています。(中小家畜研究室 野口宗彦)

